

## 指宿市地域公共交通の現状のまとめ

### ■ 地域概況

薩摩半島の最南端に位置する指宿市は、人口約 3.9 万人、高齢化率 39.6%で人口減少等が進むまち。人口や主要施設の多くは指宿駅周辺の市街地に集積しているが、住宅地や小規模集落が市内に点在。日常の通勤行動エリアは、指宿市内が約9割を占めており、市内の移動が多い。通勤・通学の公共交通利用は1割未満。

点在する市街地や集落を結ぶ公共交通網の充実を図るとともに、さらなる人口減少、高齢化社会を見据えた日常的な移手段の確保が求められる。

#### ◇概況

⇒指宿市は薩摩半島の最南端に位置し、北は鹿児島市、西は南九州市に隣接。

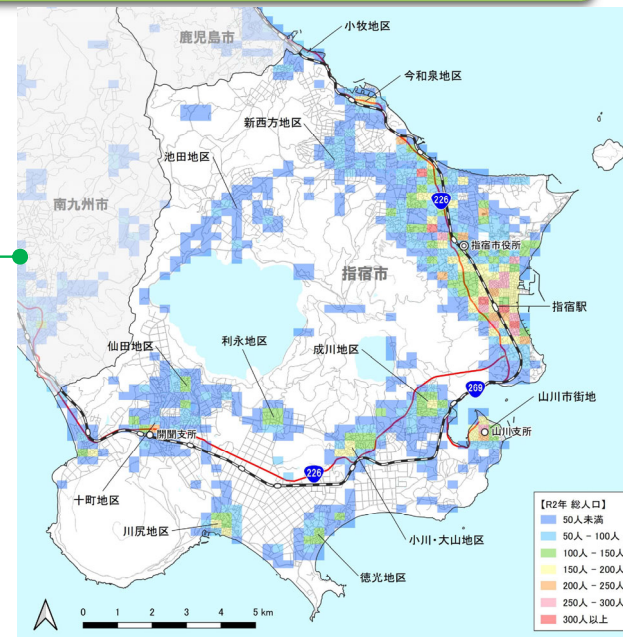
⇒山林が約3割、畑が約2割、湖沼が約1割と**自然的土地利用が多くを占めている**。一方、宅地は約1割。

#### ◇人口

⇒平成12(2000)年の48,750人から**減少傾向**が続き、令和2(2020)年には39,011人へ約9,700人(20%)減少。

⇒年齢3区分別人口は、令和2年(2020年)時点で、年少人口は4,554人、生産年齢人口は18,928人、老年人口は15,411人。令和2年の**高齢化率は39.6%**。

⇒人口分布は、**指宿駅周辺の市街地を中心に国道沿いに人口が集積**。そのほか山口市街地、今和泉地区、川尻地区などに住宅地が分散しており一定の集積が見られる。また、中山間地域でも小規模な集落が広く点在。



#### ◇将来人口

⇒人口は今後も減少することが予測され、令和27(2045)年の人口は25,432人と、**令和2年から約13,500人減少すると推計**。

⇒高齢化率は上昇傾向にあり、**令和27(2045)年には43.6%**となり、総人口の4割以上が高齢者になると推計。

#### ◇主要施設分布

⇒公共施設は二月田駅及び開聞駅周辺、医療施設は二月田駅及び指宿駅周辺、商業施設は指宿市街地及び国道沿いに立地。

#### ◇日常生活行動

⇒15歳以上の市民のうち、通勤先は約9割が市内となっており、市外での従業者数は約1割で、鹿児島市が最も多い。一方、通学先は市内が約6割、市外が約4割であった。市外への通学者の中で鹿児島市が約3割であり、**日常生活では市内間の移動が多い**。

⇒通勤・通学時の交通手段は**車利用が8割**を超えており、一方で**公共交通利用は1割未満(1.9%)**。

#### 指宿市に居住する就業者(15歳以上)



### ■ 公共交通概況

指宿市の主な公共交通は鉄道、路線バス、イッシーバス、あいたくで構成されている。

イッシーバス、あいたくの利用者数は、増加傾向にある。

公共交通のカバーエリアは鉄道、路線バスのみでは50%であるが、イッシーバス、あいたくを含めると80%。観光客の移動の足としてはJR「指宿のたまて箱」や、路線バス「エコキャンプ場⇄池田湖線」の利用が見られる。

公共交通網の維持や利便性強化、利用促進等を図り、市民や観光客に対する公共交通の利便性向上が求められる。

#### ◇公共交通網

⇒鉄道(JR指宿枕崎線)、路線バス(鹿児島交通)、コミュニティバス(イッシーバス)、予約型乗合タクシー(あいたく)で構成。

#### ◇路線バス

⇒鹿児島交通が広域路線バス3系統、市内路線バス2系統を運行、**平日の運行便数は上下合わせて38本**。

⇒利用者数は年々減少傾向にあり、**4年前と比較すると、約3割減少**。

#### ◇イッシーバス

⇒コミュニティバス「イッシーバス」は、市から鹿児島交通への委託により運行。令和4年に運行形態の見直しを行い、現在は**2路線運行**。

⇒利用者数は緩やかな増加傾向にあり、**令和4(2022)年度は5,376人**。

#### ◇予約型乗合タクシー「あいたく」

⇒路線バス及びイッシーバスが走行しない地域で運行し、現在は**6路線運行**。利用対象者は**市民かつ対象地区の居住者**。

⇒利用者数は年々増加傾向にあり、**運行を開始した令和2(2022)年度と比較すると、約7割増加**。

#### ◇鉄道

⇒JR指宿枕崎線が通り、**市内の駅数は11駅**。観光列車「指宿のたまて箱」を1日3往復運行。

#### ◇一般タクシー

⇒市内のタクシー事業者数は全6社であり、実働一日あたりの一車あたり営業収入は約1.2万円。

#### ◇公共交通カバーエリア

⇒公共交通全体の**居住人口カバー率は80%**であり、鉄道及び路線バスのカバー率(50%)から大幅に上昇。

#### ◇公共交通に関する財政負担

⇒指宿市の財政負担額は**前年度よりやや減少**しており、**公共交通による収入は増加傾向**。

#### ◇上位計画

⇒市民や観光客の移動方法の維持・利便性向上に向け、現在の**公共交通網を維持・強化し、利用促進事業等に努めつつ公共交通機関の安定運行を推進**。

